

山口県における高校生を 対象とした担い手確保

山口県 土木建築部 監理課 建設業班 主査 しもかわ なおひろ 下川 直伯

1. はじめに

現在の日本で、建設産業の担い手不足に悩んでいない地域などあるのでしょうか？ 残念ながら山口県もその例外ではなく、担い手不足に頭を悩ませながら、産学公が一体となって力を合わせ、試行錯誤を重ねつつ、その確保・育成に取り組んでいるところです。

今回、機会をいただきましたので、本県の手づくり感満載な取組をいくつかご紹介してみたいと思います。

2. 産学公の「志士たち」

山口県では、平成26年に創設した「山口県地域を支える建設産業担い手確保・育成協議会」（以下、「協議会」という）が中心となって各種対策を実施しています。

この協議会には、主に地場ゼネコン（元請企業）の集まりである「建設業協会」、「建築協会」のほか、専門業者（下請企業）の集まりである「鳶工業連合会」、「鉄筋工業協同組合」、また建設企業の若手経営者の集まりである「やまぐち建設21の会」、それから県内工業高校・高専の先生方な

ど、多様な方々が参画されています。

このように現場の最前線で汗を流しておられる皆さんに参画していただいているおかげで、本協議会では、紋切型の建前論ではなく、現実に即した本音の意見を（まるで幕末長州藩の志士たちのように）立場を超えて遠慮なく交わすことができしており、これが明治維新以来の本県の伝統と言えるのかも知れません。こうした自由闊達な議論を経て、様々な取組を実施してきました。

3. 高校生に「聞く・見る・体験する」でPR

山口県では、高校生だけでなく小中学生や若手就業者を対象とした取組も実施していますが、今回、高校生を対象とした取組に絞ってご紹介させていただきます。

本県では、高校生、中でも技術者の卵である建設系の高校生・高専生をPRのメインターゲットとしています。県内にある建設系の高校・高専は9校（表-1）、生徒数は1学年合計250名前後。この中から、どれだけ県内建設企業に就職してもらえるかが勝負です。

若い生徒に建設産業の魅力をどのようにわかりやすく伝えるか、という視点から「聞く・見る・体験する」という段階を踏まえつつ、県内就職につなげる取組を戦略的に展開しているところです。

表-1 山口県の建設系高校・高専

学校	学科	主な内容
岩国工業高校	都市工学科	土木
柳井商工高校	建築・電子科	建築
田布施農工高校	都市緑地科	農業土木
徳山工業高等専門学校	土木建築工学科	土木建築
徳山商工高校	環境システム科	土木
山口農業高校	環境科学科	土木
宇部西高校	総合学科	造園
下関工科高校	建設工学科	土木建築
萩商工高校	電気・建築科, 機械・土木科	土木建築

(1) 聞く = 「出前授業」

まず、聞いて学ぶ機会として「出前授業」を実施しています(写真-1)。申込をいただいた高校・高専に建設企業の方を派遣し、実際の体験談や建設技術の話をしていただいています。以前は企業経営者だけを派遣していたのですが、授業中に寝てしまった生徒を経営者が一喝するといったことも起こったため、経営者の方々と話し合った結果、2年前から現場で働く若手就業者も一緒に派遣することにしました。

多くの場合、経営者の方が自社の若手就業者の中から派遣先高校の卒業生を連れてきてくださっており、自分たちの先輩が話す生の体験談は、生徒たちの心をつかみ、食い入るように話を聞いてくれるようになりました。中には、出前授業を行った先輩のツテで建設企業に就職した、という嬉し



写真-1 若手就業者による出前授業

い事例も生まれています。

(2) 見る = 「工事現場見学会」

次に、見て学ぶ場として「工事現場見学会」を開催しています(写真-2)。県発注工事の中から候補現場を提示し、建設系全9校に選んでいただいています。

最近の生徒は非常に優秀だ、と感じるのがこの現場見学会です。どの生徒も県職員や受注業者さんの説明を熱心に聞き、次々と質問を繰り返す様子を見ていると、自分が無気力な高校生だった頃を思い出し、とても恥ずかしい気持ちになります。生徒たちを教育育てていらっしゃる先生方には、本当に頭が下がります。

生徒たちに人気のあるのが、ダムとトンネルの建設現場です。ダムもトンネルも普段、その建設現場を間近で見ることはまずありませんので、生徒たちの心に強く印象付けられるようです。ただし、ダムもトンネルも発注数が減少傾向にあり、将来的な見学現場の「枯渇」が危惧されているところです。こうした大規模な建設事業を執行していくことは、地域開発への経済的な投資であると同時に、未来を担う若者に夢を与える人的な投資でもある、と個人的には感じています。

(3) 体験する = 「建設産業魅力発見フェア」

体験して学ぶ企画として、本年度から新たに「建設産業魅力発見フェア」を開始しました(写



写真-2 平瀬ダムでの現場見学会

真-3)。会場にとび、鉄筋、大工などの技能やICT技術などを体験できる「体験エリア」と、建設企業のブースで実際の働き方などの話を聞くことができる「企業エリア」を設け、6高校から220名、企業から8団体30社が参加してくださいました(写真-4)。

参加した生徒、企業の反応はすこぶる好評で、生徒からは「進路を決定するのに良い経験になった」、企業からも「職業意識の高い高校生と直接ふれあうことができた」といったありがたい感想が寄せられました。

今回、建設産業だけの「企業エリア」を設けたことで大きな効果がありました。通常の就職フェアなどでは、建設企業のブースは閑古鳥が鳴き、他業種のブースは学生や生徒であふれている…というシーンをよく見ますが、今回、建設産業だけで企業エリアを設けた結果、どのブースも大盛

況。「これほど大勢の生徒がブースに来てくれたのは初めて」という声を多数いただきました。

(4) 女子生徒に人気の見学会・座談会

上記のほか、女性にスポットライトを当てた取組も実施しています。毎年8月、国土交通省山口河川国道事務所との共催により、女性を対象とした「けんせつ小町に会おう！ 工事現場見学会」を開催しています。建設産業への就職に関心のある女子高校生・高専生と、現場で働いている女性建設就業者(けんせつ小町)に参加していただき、ICT技術(建設VRなど)の体験や工事現場見学、ランチを食べながらの座談会を行うというものです(写真-5, 6)。

中でも好評なのが座談会です。けんせつ小町の皆さんが語る「女性ならではの」体験談は、学校では決して教わることのない、とても貴重な情報



写真-3 魅力発見フェアの体験エリア



写真-5 大人気の建設VR体験



写真-4 魅力発見フェアの企業エリア



写真-6 本音トーク炸裂のランチ座談会

のようです。女子生徒からは「リアルな体験談が聞けてとても参考になりました」、「同じ女性だからこそ疑問が聞きやすかった」との感想が寄せられています。

(5) 高校独自の取組「ブリッジコンテスト」

県主催の取組のほか、高校が独自に開催されている取組もあり、徳山商工高校が毎年8月に開催している「ブリッジコンテスト」もその一つです(写真-7)。これは、徳山商工の生徒が指導役となって、コンテストに参加した中学生が橋梁の模型を作成し、その強度、軽さ、デザイン性などを競うというものです。

毎回、中学生らしい独創的な発想の作品が並び、重りを載せて強度を測る「強度コンテスト」では、模型がミシミシと音を立てながら崩れ落ちるたび、会場に悲鳴と歓声が響きわたります。

このコンテストに参加した中学生が、徳山商工高校に入学し、県内の建設企業に就職した事例も多数生まれているようで、担い手確保に大きく貢献する素晴らしい取組となっています。



写真-7 悲鳴と歓声のブリッジコンテスト

(6) 団体独自の取組「建築企業ガイドブック」

関連団体が、独自に取り組んでいる事例として、山口県建築協会が昨年から発行している「山口県建築企業ガイドブック」があります。既存の高校生向け就職ガイドブックには、他業種の企業が多数掲載されており、どうしても建築企業が埋

没してしまいます。そこで、県内建築企業だけを紹介することで、高校生に目を向けてもらおうというのがこのガイドブックです。

建設系高校・高専の生徒に1人1冊ずつ配布しており、生徒だけでなく、進路指導の先生からも大変好評を得ているとのことでした。

4. 課題 ～おわりに～

このように高校生を対象として、様々な取組を進めてきた結果、建設系の高校・高専から県内建設企業への就職者数は、平成26年度の50人台から平成30年度には70人台へと増加傾向にあります。業界の皆さんの声を聞く限り、これで十分とは必ずしも言えません。

我々はどうしても「建設産業の未来」という視点で高校生にPRしがちですが、高校生にとって切実なのは「自分の未来」。自分の未来のためにベストな選択をしたい、と考えている高校生のニーズに答えていかなければなりません。

そのためには、県内建設企業が、他業種との競争に打ち勝ち、県外企業との競争に打ち勝つような、高校生にとって魅力ある就職先となり、その魅力を十二分にPRしていくことが必要不可欠です。

また、技能系の専門業者からは「建設系学科だけでなく、普通科や商業科などそれ以外の学科の生徒も呼び込んでほしい」、「我々はそうした生徒を一人前の職人に育て上げるノウハウを持っている」との声も寄せられており、建設系以外の学科や私立高校への働きかけも課題となっています。

近年、「〇〇ファースト」というフレーズが流行っていますが、山口県でも「高校生ファースト」の視点を念頭に、担い手確保の「維新」を山口県から巻き起こすという意気込みで、これからも産学公の力を合わせながら、高校生に対する取組を進めていきたいと考えています。